

兵庫・柴遺跡^{しば}

- 1 所在地 兵庫県朝来郡山東町柴字方谷
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12)十一月～二〇〇一年三月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
- 4 調査担当者 西口圭介・鈴木敬二・海邊博史
- 5 遺跡の種類 官衙関連遺跡
- 6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(但馬竹田)

柴遺跡は丹波国と但馬国の境である遠阪峠の但馬国側の麓にある。遺跡は南面する山裾の狭い谷中にあり、谷が埋没し安定してゆくなかで形成されている。今回の調査は北近畿豊岡自動車道の建設に伴うものである。調査地点の南側には近世の山陰道(現国道四二七号)が走っており、古代から中世の山陰道についても近隣に推定できる地点である。

調査の結果、八世紀から

一〇世紀にかけての遺構・遺物を検出した。遺構は比較的地盤が安定している山裾よりに集中しており、遺物は主にその前面の湿地堆積土中に投棄もしくは流入した状態で出土している。

遺構・遺物包含層は上下二層に大別され、上層は一〇世紀、下層は主として八世紀から九世紀前半の時期が与えられる。

上層では、整地層と水田畦畔の芯材と考えられる木組みが検出されているが建物などは検出されなかった。

下層では、掘立柱建物八棟・井戸一基が検出されている。建物はいずれも二間×三間程度の小規模のものである。

遺物は今回報告する木簡のほか、馬形が主体となる木製祭祀具・神功開宝・緑釉陶器・墨書土器・金属器を模倣したとされる稜枕・多量の転用硯など官衙的色彩をもつ遺物が出土している。遺物は八世紀初頭～八世紀前半、及び九世紀後半の時期のものをごく少量含むが、八世紀後半から九世紀前半と一〇世紀のものが大半を占める。今回報告する木簡のうち、(1)は掘立柱建物一の南東端の柱抜取穴から出土した。(2)(3)は下層の遺物包含層、呪符木簡三点(4)(5)(6)は上層の遺物包含層より出土している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「く驛子委文マ豊足十束代稲粳一尺」 316×32×5.5 033
〔物カ〕
- (2) 以今月三日癸卯日送□ 〔物カ〕 (242)×(39)×4.5 081

- (3) ・×悦乎 有朋自×
 ・×子乎 有子×
 (100)×24×7 081
- (4) (符籙)
 過 急々如律令
 左方□立
 (100)×52×4 041
- (5) 「く咄天罡」
 「」急急如律令
 145×(18)×6 032
- (6) 「く咄天罡」
 「」
 177×36×4 032



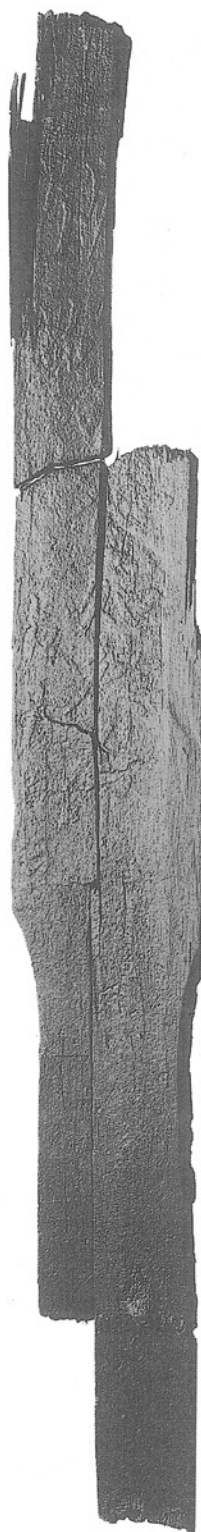
(2)



(1)



(3)表



(4)

(1)は上端の一部が欠損している以外はほぼ完存している。駅家運営のために駅子に課した出挙(駅稲)の本稲分の返納について記した付札木簡である。駅子委文部豊足が、稲一〇束の代わりに稲粳一石で返納している。この木簡は、本稲分の返納に際して稲粳とともに駅家へ行き、その周辺で廃棄されたものである。一石を一尺と書く用例は、紅葉山文庫本『令義解』賦役令に「一石」の石に尺の註があるなど、これまで文献の中では確認されているが、地方出土

文字資料では初めての例である。また、本木簡から所在が考えられる駅家は山陰道粟鹿駅家である。粟鹿駅家は丹波国側から入る但馬国最初の駅家である。粟鹿駅家の所在地については、従来、柴を含め周辺において数説あったが、本木簡の出土によって今回の調査地点の至近に駅館が存在した可能性が高くなった。

(2)は干支と日付を併記している。文書木簡の断片であろう。

(3)は『論語』学而篇を表裏両面に記した木簡である。表面には冒頭の一節が記されている。裏面には表面に続く部分が記され、文字の重複や繰返しがなく、習書とは考え難い。複数の木簡に、表・裏・表・裏の順に『論語』学而篇が記されていたものと考えられる。現状では木簡は上下端を破損しているが、両面の文字の配列から、片面に二〇～二一文字が記され、文字部分だけで四〇cm弱、全長はそれ以上の長さがあったことがわかる。

(4)(5)(6)はいずれも呪符木簡である。(4)は羽子板状の形状をもつ。(5)(6)はいずれも上端に切り込みをもつものである。

なお、木簡の釈読・内容の検討にあたっては国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『ひょうごの遺跡』四〇(二〇〇一年)
同『平成一一年度年報』(二〇〇一年)

(西口圭介)

本簡研究 第二号

巻頭言—WEB版木簡データベースの公開に思う—

石上英一

一九九八年出土の木簡

概要 平城京跡右京七条一坊十五坪 秋篠・山陵遺跡 薬師寺旧境内 藤原京跡右京六条四坊北西坪 大藤原京跡左京北五条三坊南西坪 飛鳥池遺跡 飛鳥池東方遺跡 飛鳥東垣内遺跡 川原寺跡 備前池遺跡 長岡宮跡 平安京跡左京三条三坊十五町 平安京跡左京七条二坊八町及び本園寺 鳥羽遺跡・鳥羽離宮跡 大坂城下町跡 宮ノ前遺跡 武者ヶ谷遺跡 河守遺跡 難波宮跡 加都遺跡 豊岡城館長保寺遺跡 溝昨遺跡 玉櫛遺跡 釣坂遺跡 姫路駅周辺第四地点遺跡 網干遺跡 六太A遺跡 櫛田地区内遺跡群奥ノ垣内地区 内垣外遺跡 宇津宮辻子幕府跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡(四谷御門外橋跡・御堀端通・町屋跡) 法光寺跡 白鷺遺跡 池之端七軒町遺跡 浅草寺遺跡 上千葉遺跡 宮町遺跡 小谷城跡(伝知善院跡) 尾上浜遺跡 屋代遺跡群(北陸新幹線関係) 後田(旧月記)遺跡 一本柳遺跡 市川橋遺跡 柳之御所遺跡 志羅山遺跡 榎田遺跡 遺跡 洲崎遺跡 中保B遺跡 東木津遺跡 榎谷南遺跡 榎井A遺跡 下ノ西遺跡 跡 宅本杉遺跡 砂山中道下遺跡 下町・坊城遺跡C地点 船戸川崎遺跡 三田谷I遺跡 熊山田散布地 岡山城二の丸(中国電力変電所)遺構 新道(清輝小)遺跡 米田遺跡 百間川米田遺跡 四日市遺跡 下上戸遺跡 長登銅山跡 観音寺遺跡 平田七反地遺跡 元岡遺跡群

一九七七年以前出土の木簡(二二) 平城京跡左京二条二坊十坪 長岡京跡(一八号) 東浅香山遺跡(二〇号) 伊興遺跡(一九号)

シンボジウム「長屋王家木簡をめぐって」の記録

削屑からみた長屋王家木簡：渡辺晃宏、長屋王家の米支給関係木簡：勝浦令子、長屋王家の経済基盤と荷木簡：柳木謙周、討論のまとめ：東野治之

木簡の撮影 書評 今泉隆雄著『古代木簡の研究』 森 公章 井上直夫

額価 五五〇〇円 送料六〇〇円